

## 保育園留学

### 取組のあらまし

- 取組団体 北海道檜山郡厚沢部町
- 取組内容 ・認定こども園「はぜる」における一時預かり保育  
 ・町営等の移住体験住宅への滞在中、空き家等をワーケーション先として提供  
 ・地元の暮らし体験プログラム  
 の3つを柱にした保育園留学を行っている。
- 推進体制 3名（令和7年度：役場内担当職員数を記載）
- 予算等 19,400千円（令和7年度）

### 1 北海道檜山郡厚沢部町の概要

人口	3,269人	令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職員数	59人	令和6年4月1日現在（一般行政部門）
総面積	460.58km <sup>2</sup>	令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」）

図表 1 厚沢部町位置図



出所：厚沢部町ホームページ

## 2 取組の背景・目的

### (1) 取組の背景

北海道檜山郡の厚沢部町は、人口減少に対応するため、以前から町営の移住体験住宅を整備し、定住希望者に対するお試し居住の受け入れを行っていた。平成31年には、自然豊かな環境でのびのび子育てできる認定こども園「はぜる」を開園し、町外から短期間でも子どもを預けられる一時預かり制度も設けていた。しかし、移住体験住宅の利用者は主に高齢者に偏り、若い世代の利用や定住にはつながっていなかった。

こうした中、令和3年6月に首都圏のIT企業経営者（キッチハイク CEO 山本雅也氏）から、「1歳の娘を『はぜる』に通わせながらテレワークができないか」という問い合わせを受けたことが転機となった。町は正式な転園手続を経ずに利用できる一時預かり制度と、空いていた移住体験住宅への滞在を提案し、企業経営者一家が約2週間の「親子留学」を体験した。滞在中の経験を、SNSで「保育園留学をしている！」と発信したところ、「楽しそう」「こんな制度があるのか」「新しいワーケーションの形だ」などの反響を呼んだ。

その体験を受けて、山本氏が滞在最終日に、この体験をモデルにした事業化プラン（「はぜる」での一時預かり＋移住体験住宅への1～3週間滞在＋地元暮らし体験）を町に提案し、これが町と民間の協働による新たな移住施策「保育園留学」が動き出す契機となった。

### (2) 保育園留学の全体像

厚沢部町の「保育園留学」は、町が有する3つのリソースをパッケージ化したものである。一つ目は認定こども園「はぜる」における一時預かり保育であり、地元児童の定員に余裕がある枠を活用して町外からの子どもを短期間受け入れる。二つ目は町営等の移住体験住宅への滞在中で、十分な通信環境を整えた空き家等をワーケーション先として提供し、親がリモートで働きながら家族で町に滞在できるようにする。三つ目は地元の暮らし体験プログラムで、ジャガイモ（※厚沢部町はメークイン発祥の地）やアスパラガスの収穫体験など季節ごとの農林業・食文化を家族で体験できる機会を用意する。これら3要素をひとまとめにし、「住んでみたい・住んで良かった・住み続けたい」をかなえる魅力的な滞在メニューとして打ち出したのが「保育園留学」である。

取組開始にあたって町内では、認定こども園、移住支援を担う町出資会社、商工会、観光協会、農協などが連携して「保育園留学推進協議会」を結成し、利用希望者向けのワンストップ相談窓口を設置した。こうした官民挙げての推進体制により、保育園留学は町の重点プロジェクトとして位置づけられた。

### 3 取組内容

#### (1) 認定こども園「はぜる」での一時預かり事業

厚沢部町認定こども園「はぜる」は、町内の保育所と幼稚園を統合して平成31年に開園した施設である。園舎は木材を多用した温かみのある空間設計で、広大な園庭を備え、子どもたちが大自然に触れながら思い切り遊べる日本有数の環境を誇っている。地域の子育て支援拠点として誕生した経緯から、当初より町外者でも利用できる一時預かり制度が整備されており、地元児童の定員に空きがある場合に限り、家族で短期滞在する児童を受け入れている。受け入れ期間は通常1～2週間程度で、滞在中は地元の子どもたちと一緒に日中は園で過ごし、夜間は保護者と移住体験住宅で生活する流れとなっている。

園の保育内容は「子どもが主役」の理念に基づき充実しており、連絡ツールに専用アプリ（ルクミー及びキッズリー）を活用するなど保護者との連携も密に行われる。こうした質の高い保育環境と熱意あふれる職員の姿勢が、「保育園留学」利用者の満足度を支える要素となっている。

図表 2 認定こども園「はぜる」～地元の木材をふんだんに使用し木のぬくもりを感じられる～



出所：厚沢部町認定こども園はぜる HP

#### (2) 移住体験住宅におけるワーケーション

移住体験住宅は、町が移住希望者向けに用意している滞在用住宅である。厚沢部町では「素敵な過疎づくり株式会社」という第三セクターを通じて町内各所に移住体験住宅を整備・管理しており、2LDK～3LDK 規模で家族にも対応できる住戸を複数提供している。

保育園留学ではこの体験住宅を家族の滞在先と位置づけ、インターネット回線やWi-Fiを完備して親がテレワークできる環境を整えた。滞在中、日中は子どもを「はぜる」に預け、親は住宅でリモートワークを行う。夕方以降は親子で団らんしながら町の暮らしを体験するという生活サイクルが可能となっている。利用できる住宅は町有の3棟4戸に加え、民

間の空き家を活用した2棟2戸、(株)キッチハイクが整備した4棟4戸の「保育園留学の寮」があり、最大で同時に10家族まで受け入れ可能である。

なお滞在費用は、後述する「旅先納税」の仕組みを使うことで自己負担を実質的に軽減することができる。

### (3) 地元の暮らし体験プログラム

厚沢部町での生活をより深く味わってもらうため、地域ならではの体験プログラムが用意されている。具体的には、農業体験（ジャガイモ・アスパラガスなど季節の収穫作業）、林業体験、郷土料理の調理体験、地元の祭りやイベントへの参加、町民との交流会など、多彩なメニューが用意されている。例えばジャガイモ掘りでは、日本有数のジャガイモ産地である厚沢部の畑で親子が土に触れながら収穫を楽しむことができる。こうした体験は、都市生活では得られない発見や学びを子どもにもたらし、家族にとって「地方で暮らす」ことの具体的なイメージを掴む機会となっている。

また受け入れ側の地域住民にとっても、都市からの家族との交流は新鮮な刺激となっている。実際に、東京から来た子どもと接した地元園児たちは「飛行機に乗って来た」「高層マンションに住んでいる」等、自分たちとは異なる環境の友達の存在に好奇心をかき立てられ、コミュニケーション能力が向上するといった効果も生まれている。

このように、単なる観光ではない“暮らし”の体験を通じて、来訪家族と地域双方にポジティブな変化が生まれている。

図表 3 厚沢部町における農業体験



出所：保育園留学 HP

### (4) 新たな取組（キッズドクター、旅先納税）

キッズドクターとは、小児科医によるオンライン診療・相談サービスであり、厚沢部町では令和4年8月より「保育園留学」の利用家族および町民に提供を開始した。子ども連れで見知らぬ土地を訪れる際、最も不安要素となるのが子どもの急病対応であるが、本町には小児科がなく夜間救急は隣町まで車で1時間以上かかるという課題があった。そこで民間企業

と提携し、スマートフォンのアプリから夜間・休日に小児科医に相談・診察できるオンライン診療サービスを導入したのである。診察後の処方箋は町内の薬局で受け取れるため、深夜に遠方の病院まで行かずとも翌朝に地元で薬を入手できる。このサービスは留学家族専用ではなく地元の子育て世帯も利用可能で、過疎地医療の課題解決にも資する取り組みとなっている。

「旅先納税」（留学先納税）は、地方税制のふるさと納税制度を活用して保育園留学の経済的負担を軽減するとともに、地域にも資金を呼び込む仕組みである。具体的には、滞在中にスマホから厚沢部町へふるさと納税の寄附を行うと、その場で町内の提携店で使える電子クーポンが発行される。町にとって寄附金収入が得られるだけでなく、返礼品の電子クーポンが地元店舗で利用されるため、寄附額が地域内消費として循環する仕組みになっている。

#### （5）取組の推進体制

保育園留学の推進にあたっては町内の幅広い関係者が協力している。中核となる認定こども園「はぜる」は町の直営施設であり、移住体験住宅を管理する素敵な過疎づくり株式会社も町が100%出資する第三セクターである。さらに、商工会や観光協会、農協など各種団体が参加する保育園留学推進協議会が組織され、利用希望者への情報提供・相談対応、園や住宅の調整、地域体験プログラムの手配まで、ワンストップで対応できる体制を整えている。

一方、民間側のパートナーとして、取組の提案を行った首都圏のスタートアップ企業、株式会社キッチハイクが企画・マーケティング面で深く連携している。町と同社は令和4年4月に官民連携協定を締結し、「次の100年を創造する地域の家族とつながりをつくる『保育園留学』事業」を本格スタートさせた。内閣府の地方創生推進交付金も活用されており、国の支援の下で令和4年度以降、受け入れ環境の整備やプロモーション活動が展開されている。

## 4 成果・課題

### （1）成果

厚沢部町の「保育園留学」は、開始直後から想定を上回る反響を呼んだ。令和3年11月に正式募集を始めてからメディア報道もあり、令和4年度の申込みは初月で100件を突破、その後も問い合わせが殺到して最終的に利用見込み140件、問い合わせ1,200件以上、キャンセル待ち100件超という盛況となった。利用者の約9割が「また利用したい」と回答する高いリピート希望率を示し、実際に既に同じ家族が2回目、3回目の留学に訪れるケースも出ている。

利用者からは「子どものために始めた保育園留学だったが、熱心な先生方の姿勢に触れて親としての向き合い方を考え直す機会になった」「子どもの楽しそうな様子が毎日写真で届

き安心できたおかげで、テレワーク中の生産性も向上した」等の声が多く寄せられている。また試算によれば、滞在家族が地元で消費する宿泊費や飲食費、交通費などを合計すると年間3,000万円程度の経済波及効果があり、地域の新たな稼ぐ力にもつながっている。

こうした取組の価値が広く認められ、令和5年度の「地域づくり表彰」国土交通大臣賞をはじめ数々の賞を受賞している。特に国交省の選定理由では、「関係人口からお試し居住を経て移住・定住へ移行する道筋の一部を示す先進的取組」と高く評された。また一般社団法人日本子育て支援協会による「日本子育て支援大賞2023」自治体部門も受賞し、審査講評で「年間150組が利用し、キャンセル待ち1,500件という絶大な人気」「オンライン診療（キッズドクター）など独自の取り組み」が評価ポイントに挙げられた。

## (2) 課題

課題として、同時受け入れ可能な家族数は最大10組に限られ、長いキャンセル待ちが発生している状況であり、急増するニーズへの受け入れ体制の拡充があげられる。特に受け入れ住宅の不足は深刻で、町内の空き家活用も含めさらなる確保が不可欠となっている。未就学児家族専用の滞在施設「保育園留学の寮」を、町の補助を受けて、(株)キッチハイクが令和5年度に2棟、令和6年度に2棟を開設した。しかし、現状もキャンセル待ちなどが続いている状況ではあり、空家ストックをいかに利活用するかが引き続き課題として浮上している。

また、町としては、「暮らしてくれる関係人口」が着実に増えていけば、「移住と同じ意味をなす」と考えており、長期的な視座に立った関係人口の創出が課題といえる。

## 関連・参考資料

---

全国町村会：北海道厚沢部町／「保育園留学」を通じた地域活性化・超長期的な関係人口創出の取組

<https://www.zck.or.jp/site/forum/24954.html>

厚沢部町：令和5年度「地域づくり表彰」国土交通大臣賞を受賞しました！

<https://www.town.assabu.lg.jp/page/8061.html>

厚沢部町：第4回日本子育て支援大賞を受賞しました

<https://www.town.assabu.lg.jp/page/7351.html>

厚沢部町：認定こども園「はぜる」が第18回公共建築賞優秀賞を受賞しました

<https://www.town.assabu.lg.jp/page/7353.html>

厚沢部町認定こども園はぜる HP

<https://hazeruassabu.com/>

保育園留学 HP

<https://hoikuen-ryugaku.com/>

キッチハイク、北海道厚沢部町と「保育園留学」を核とした関係人口拡大と経済効果を図る連携協定を締結

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000128.000006899.html>